

花鳥時絵螺鈿聖籠(サントリー美術館蔵)



展覧会では他にも首里城銭蔵から発掘された螺鈿資料の展示や、「さまざまな螺鈿」と題したコーナーを設けて色々な用途や形、技法の面白い漆器なども展示します。楽しみながら螺鈿の様々な魅力に親しんでもらえれば幸いです。

◆螺鈿展記念講演会◆ 螺鈿の魅力

○講師 高橋隆博氏(元関西大学教授)
○日時 平成29年1月22日(日)午後2時より
○会場 浦添市美術館講堂 無料

◆ギャラリートーク◆

○講師 川畑憲子氏
(九州国立博物館主任研究員)
○日時 平成29年1月14日(土)午後2時より
○会場 美術館常設展示室 有料

◆螺鈿実演とトーク◆

○講師 前田孝允氏
(沖縄県指定無形文化財保持者)
○日時 平成29年1月15日(日)午後2時〜4時
○会場 美術館常設展示室 有料

◆展覧会◆

○会期 平成29年1月14日(土)〜2月19日(日)
○観覧料 一般 800円(600円)
大学生 600円(400円)
高校生以下無料(1〜20名以上の団体料金)

ポーツ美術振興財団助成国際シンポジウム 「アジアに広がる螺鈿の文化と歴史」

螺鈿とは、漆器の表面を貝で飾る技法です。ヤコウガイやアワビなどの真珠層が、漆の光沢と競い合うように七色に輝く螺鈿漆器はとても幻想的で、人々はその虜になりました。

琉球では、14世紀にはヤコウガイを中国・明王朝へ献上しています。近世琉球では、螺鈿漆器として完成し、中国皇帝や日本の大名への重要な贈物となりました。

一方、日本や中国、朝鮮半島、タイやヴェトナムなどの国々でも、螺鈿漆器の技術や歴史が伝承されてきました。アジア各地の螺鈿は、その民族の豊かな美意識に支えられ展開してきました。

本シンポジウムでは、日本や韓国、ヴェトナム、タイの螺鈿作家や研究者が、その魅力や特色をお伝えします。螺鈿という共通の漆芸を通して、互いの文化や民族を確認し、次世代に交流が繋がる機会となることでしょう。皆様の参加をお待ちしています。

報告者は、北村昭斎氏(日本人間国宝)、李瓏姫氏(韓国)、安藤彩英子氏(ベトナム)、高田智仁氏(タイ)、ウィラヤー・ジャンタラデー氏(タイ)です。

○日時 平成29年2月5日(日)
午後1時〜5時30分
○場所 浦添市でだこホール
※入館無料

冬の子ども体験教室 (生徒募集)

●集まれ！書くこと大好きっこ

○内容 筆以外の素材でアート書初めをする。
○実施 1月22日(日)
○時間 10時〜12時30分
○定員 小中学生 15名
○費用 500円程度
○講師 田場 珠翠氏(筆文字アーティスト)
○申込 12月13日(火)〜1月6日(金)

●螺鈿(らでん)教室

○内容 銘々皿に貝で文様を付ける。
○期間 1月14日(土)〜2月18日(土)
(毎週土曜日 全6回)
○時間 午後2〜4時
○定員 10名
○費用 3500円程度
○講師 後間 義雄氏
○申込 11月15日(火)〜12月21日(水)

●切り絵教室

○内容 切り絵の技法を学ぶ。
○期間 3月 全3回
※各教室の詳細は、美術館までお問合せ下さい。
※申し込み多数の場合は抽選。浦添市在住・在勤・在勤・未経験者優先となります。ご了承ください。



(市長賞)

○主催 浦添市・浦添市教育委員会
○会期 12月21日(水)〜1月8日(日)

琉球の漆文化と科学2016 〜螺鈿と文化〜

去る11月19日(土)に、明治大学(本多研究室)と共同主催の「琉球の漆文化と科学」を当館講堂にて開催しました。今回は1月14日より開催の企画展「きらめきで飾る」螺鈿の美をあつめて」にあわせた内容で開催。県内外から一五名が参加し、最新の研究報告を紹介したほか、改めて螺鈿の魅力を考える機会となりました。

内容は、「螺鈿に利用される貝類」(黒住耐二氏・千葉県立中央博物館)、「アジアの螺鈿史瞥見ー真珠光沢への希求ー」(小林公治氏・東京文化財研究所)、「首里城跡発見の螺鈿破片」(瀬戸哲也氏・沖縄県埋蔵文化財センター)、「琉球螺鈿を科学する」(マイクロナター)、「琉球螺鈿を科学する」(マイクロナター)、「琉球螺鈿の復元」(宮城清氏・伝統工芸士)を報告。資料観察会として首里城銭蔵より発掘された貝片と宮城氏の螺鈿資料の展示・マイクロスコープによる貝の観察を行いました。

▼研究報告の様子



▲マイクロスコープによる観察 ▲首里城跡から発見されたヤコウガイ(埋蔵文化センター所蔵)

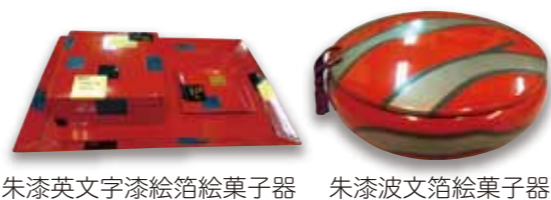
嶋田コレクションの寄贈

去る10月14日(金)に本市教育長室において、嶋田正俊氏より御寄贈いただきました昭和10年頃の沖縄の漆器等13点と首里の織物2点の感謝状贈呈式を行いました。

これらの作品は、嶋田氏の父である嶋田正雄氏(当時大蔵省勤務)が沖縄振興策関連で来県した際の土産や自身が購入した漆器が中心です。入手時期や所蔵者などの来歴、当時の先端の漆器がどのような物であったかがわかります。

これまで当館が収集していない英文字をデザインした箱型菓子器のセットや銀箔の大胆な波文様をあしらった菓子器のほか、「沖縄漆工藝組合」の銘がある漆器もあり、近代日本のモダンデザインの流れにそった品物を沖縄でも制作していたことがよくわかります。

沖縄の漆芸史に欠かせない作品であり、当館では「嶋田コレクション」として紹介していきます。



朱漆英文字漆絵箔絵菓子器 朱漆波文箔絵菓子器

第6回世界のウチナンチュ大会

10月27日から三日間かけて行われた「世界のウチナンチュ大会」では、七千名余りの県系人が沖縄を訪れました。当館へも、ペルー・ブラジル・アメリカなどへ移住された浦添出身の県系人九八名がお越し下さり、伝統的な漆器の名品を鑑賞しました。シンメーターピや豆腐箱など昔ながらの民具コーナーでは、懐かしそうに当時の暮らしを思い出される方もいらっしゃいました。



学芸員技術研修会 報告

文化庁の美術館支援事業の一環として、11月7日に学芸員技術研修会が当館にて行われました。この研修会は日々展覧会の企画立案や制作を行っている博物館・美術館の学芸員を対象に、「より良い展示の作り方」を学ぶことを目的としています。

講師には東京大学総合研究博物館の洪恒夫氏をお招きし、他市町村施設からも20名余りの学芸員が参加されて活発に意見が交わされる研修会となりました。



▼展示室内でのグループワーク風景

浦添市美術館 非公式キャラクターの うらびい です。 次回展覧会もどうぞ よろしくお願ひします。

